

国際ガーデン EXPO 出展

今月10日から12日、アジア最大の園芸・造園業界の専門展である国際ガーデン EXPO (GARD EX) が幕張メッセにて開催され、当社も部分的な形ではあるが、初めて出展を行った。また、国際フラワー EXPO とエクステリア EXPO も同会場にて同時開催された。第6回となった今回の GARD EX では、国内外の関係業者230社が出展、来訪者は26,846人(10/17現在速報値)。弊社ブースへの来訪社も650社を数え、スタッフも商品のアピールに努め、得る所の大きい取り組みとなった。

出展の経緯

当社は園芸用小袋販売の取り組みを開始して5年ほどになるが、この度改めてこの活動をアピールするべく、ジェイカムアグリ(株)様に協賛する形で出展を行った。ブースには当社特販部の職員がスタッフとして常時待機し、ユニフォームを着用して来訪各社に対応。また、スペースの関係もあり、陳列は芝生や花卉向けの園芸用小袋肥料「オールイン」に絞った。「オールイン」は一粒化成の国産 I B 肥料で、肥効にムラがなく、緩やかに長く安定した肥効が続く、低臭で安全性が高いという特徴を持つ。このため、室内やプランター、温室などの園芸向け使用に最適なアイテムだ。

初日は大盛況～舞台裏では

初日のブース来訪者数が想定以上に多く、準備したカタログを配りつくしてしまい、レンタカーで追加手配分を急いで持ち込む一幕もあった。しかし、関係各位の協力によって3日間の会期は無事に終了することが出来た。出展を通じて当社商品をアピール出来たほか、今回の出展を契機に新たな商談が期待できそうだ。

今後の意気込み

参加した当社スタッフは「これまで参加してきた商品展示会と雰囲気は異なり、GARD EX は広く出展社や来場者を募っている。そのためブースを訪れる来場者の多彩さに驚いた」と話す。今回当社ブースを来訪された650社の内訳は、ホームセンターのバイヤーや花卉・造園関係事業者、種苗店や農材店、JA など多岐に渡る。外国からの訪問者も多く様々な問い合わせや提案が寄せられたと言う。当社特販部の意向として、陳列商品のジャンルを広げ、更に次年度以降の GARD EX への出展も続けていきたいと考えている。

ちなみに・・・販促品が大活躍

また、当社ブースで人気を集めたのは、「オールイン」の販促資材として準備した玩具「ひだまりガーデン」だ。太陽電池を内蔵し、光のさす場所に置くと葉と花の顔が揺ら揺らと動き出し和ませる。開催に際し1,000個を準備したものの、出展期間中に全てを配り終えるほどの好評を博した。特に女性来場者には大人気で、この販促品を目的にブースを訪問される方も。外国からの来場者の中には、この販促品を自国で販売出来ないかという相談まで寄せられた。今号が発行される頃には、頒布した「ひだまりガーデン」が各地の事務所や店頭で「オールイン」の宣伝をしてくれるだろう。



エムシー・ファートイコム つくば開発センター オープン

エムシー・ファートイコム(株)(= MCFC)は本年10月、茨城県つくば市につくば開発センターを開所した。当センターの敷地面積は1,500㎡、うち400㎡を建屋が占める。また、試験圃場として水田が3.0反、畑は2.5反が敷地脇に併設されている。



人員体制は常勤6名と兼務者3名により運営。今後、被覆肥料原体以外の商品開発は基本的に当センターに集約する予定だ。従来の開発拠点である宇部は被覆肥料原体に関する研究を引き続き行い、MCFC商品の主要な開発拠点はつくばと宇部の二か所となる。

つくば開発センターが注力していくのは機能性商材の更なる開発であるが、MCFCは今後当センターで行う商品開発の方向性として、「省力化」「微生物分解」「微量元素」という3つの方向性を掲げる。

すなわち、被覆肥料の改良や改善、ノン・コーティングの緩効性肥料やロングタイプの肥料の開発を通じた農家の「省力化」に資する肥料の継続的開発、土や作物に優しい「微生物分解」商材の一層の充実、学術的研究が急速に進み、昨今その必要性や優位性が指摘されている「微量元素」商材に磨きをかけて行くこと。MCFCは、これらの方向性を複合的に追求してゆき、農家の求める優れた商品作りに邁進したいとしている。

まずは野菜から～食べる順番で血糖値をコントロール

大阪府立大学の今井佐恵子教授は、今年7月に同大学のホームページで、野菜を先に食べるという食習慣によって血糖値の変動を抑制出来るとの研究結果を発表しているのでご紹介したい。血糖値が大幅に変動することによって引き起こされる糖尿病や心筋梗塞、動脈硬化や脳卒中などが食習慣の改善によって、無理なく予防出来ることが期待される。

この研究は、肥満などを原因として血糖値の調整能力が落ちた2型糖尿病患者と健康な被験者に炭水化物摂取前に野菜を摂取させることによる血糖値の変動を解析したものだ。試験食の摂取方法は、被験者がまず野菜を5分かけて食べた後に肉や魚などの主菜を食べ、野菜を食べ始めてから10分経過した時点でご飯等の炭水化物を食べるといったもの。被験者は異なる日に逆の順序で炭水化物を先に食べた後に野菜を食べ、血糖値の変動を比較することになる。



計測の結果、野菜を先に食べることにより、2型糖尿病患者と健常者のいずれも食後の血糖値について、変動幅の減少が見られた。例えば2型糖尿病患者の昼食後2時間の血糖値は、炭水化物を先に摂取した場合195 mg/dlと高かったが、野菜を先に摂取した場合160 mg/dlに低下した。健康な被験者も同様に血糖値の変動幅が減少した(mg/dlは100cc当たりの血中糖分量を表す)。なお、先に摂取する野菜は生のままで煮ても効果がある。キノコや海藻類でも同様の効果が期待出来るので、我々の日常の食生活に取り入れやすい。

日本の糖尿病患者数は全国推定約2,210万人、急性心筋梗塞だけでも年間15万人が発症する。生活習慣に起因する病気は日々の食習慣も大きな影響を持つ。血糖値をコントロールし、発症のリスクを軽減するために「まずは野菜から」を心がけては如何だろうか。

今回のガーデン EXPO で配布した販促物が私のデスク周りにも置いてありますが、ゆらゆらとする動きがとても和ませてくれて、なんとも可愛いです。ほっと一息に一役買ってますよ。

編集事務局：小田、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>